

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年6月23日時点)

➤ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍に対する攻撃を強化する一方、露軍は、各正面において防御戦闘を実施するとともに、各地の軍事・非軍事施設に対する攻撃を継続している模様。**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約6万~7万人 (CSIS2月27日)

死者約20万8,000人 (「ウ」軍東部作戦管区報道官6月3日)

死傷者約18万人 (クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

「ウ」軍: 死者最大約1万3千人 (ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者8490人以上、負傷者1万4,244人以上 (OHCHR4月10日)

・ プーチン大統領は、「**「ウ」軍は、6月4日、戦略予備部隊を用いて反転攻勢を開始した**」と指摘。また、「現時点[21日]では[前線で]一定の平静状態が保たれている。これは、**敵が兵員及び装備の両面で深刻な損害を被っている**ためだ。莫大な人的損失については言うまでもないが、本日[21日]未明に、我々の兵士たちは、敵の戦車245両及び各種装甲車両約678台を破壊した」と発言 (6月21日)

・ 民間軍事会社 **ワグナー**のプリゴジン氏は、**露国防省が「ウ」軍の反転攻勢を巡り自国民を欺いていると非難**。実際には「ウ」軍が進撃を続けており、**ピャチハツキーなど多くの村が「ごっそり敵の手に渡った」と指摘**。さらに、同氏は、「ウ」軍がドニプロ川を渡ろうとしているとした上で、「気づいたときにはクリミア半島も「ウ」の手に渡っていることだろう」と指摘 (6月21日)

・ マリヤル「ウ」国防次官は、ドネツク州西部とザポリジヤ州西部で、「ウ」が**ピャチハツキー**(オリヒウから26km南西の集落)を含む**合計8つの集落を解放**し、最大7km前進、合計で**113km解放**した旨公表 (6月19日)

・ ダニロフ「ウ」国家安保国防会議書記は、「[反転攻勢は] **今後2~3か月が決定的に重要になる**」との見解を表明 (6月20日)

・ ゼレンスキー大統領は、BBCのインタビューに応じ、現在の戦況について、「**全てが容易というわけではない。我々は今より大きく前進しようとしているが、現状では望んでいるより小さい前進にとどまっている。人々はハリウッド映画のようにすぐに結果が出ることを期待するが、そうではない。ロシア軍が「ウ」領土20万km²にわたり地雷を仕掛けたため、進撃が簡単にできずにいる。今危険なのは人々の命だ**」と発言 (6月21日)

・ 「ウ」国営軍需企業広報は、「ウ」が独自に開発した**航続距離1,000kmのUAV**使用に成功した旨公表 (6月20日)

・ レズニコウ「ウ」国防相が**F-16の展開は年明け以降になる**旨発言 (6月17日)

・ デンマーク国防省は、**自走榴弾砲カエサル×19両**すべてを「ウ」に供与した旨発表 (6月19日)

・ ベラルーシのルカシェンコ大統領は、「[ロシアからの] **戦術核が全て搬入され次第、ベラルーシ各地に分散させるつもりだ**。わが国には田舎の犬小屋と同じぐらいの数の貯蔵施設があり、**既に5~6個[の施設を]復旧させ、今後さらに復旧させる予定**」と発言 (6月13日)

・ プーチン大統領は、モスクワの軍大卒式での演説で、ICBM・SLBM・長距離爆撃機で構成される「**核の3本柱**」がロシアの安全保障と世界の安定にとって最も重要だと指摘するとともに、**新型ICBM「サルマト」が近く実戦配備されると発言** (6月21日)

・ マリヤル「ウ」国防次官は、露軍が**ハルキウ州クピャンスク**及び**ドネツク州リマン**方面で積極的な攻撃に出ている旨指摘 (6月19日)

・ マリヤル「ウ」国防次官は、「**「ウ」軍が南部各正面で進軍している一方、露軍は東部に戦力を集中させている。敵[露軍]の主攻正面は東部にある。なぜなら侵略者[露軍]は依然としてドネツク・ルハンスク州境到達という目標を放棄していないからだ**」と指摘 (6月20日)

・ ロシアが任命したヘルソン州知事は、「ウ」軍が**ヘルソン州とクリミア半島を結ぶ橋を攻撃**したと指摘。また、橋は**ストームシャドウによって攻撃された可能性が高く、道路が損傷したが、死傷者は報告されていない**と発言 (6月22日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源:ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等